

沼田市議会民生福祉常任委員会の行政調査報告

農業用水活用し小水力発電の利益で地域おこし

岐阜県郡上市白鳥町石徹白（いとしろ）地区

岐阜県と福井県の県境に位置し、隣の集落から12kmも山奥に入った集落。50年前は1200人いた人口が現在では250人程に。このままでは廃集落になるという危機感から、地域おこしのための「NPO法人やすらぎの里いとしろ」を住民の約半分が参加して2003年に結成。キャンプ場の運営や歴史勉強会などを開催した。



理事の説明を受ける議員たち

4年後、マイクロ水力発電事業を開始するとともに、「石徹白地区地域づくり協議会」をほとんどの住民が参加して設立し、小さな水車による発電ポテンシャルと消費電力量を調査。翌年、らせん型水車2号機設置、連続運転を開始した。また、公式ホームページ「石徹白人」を立ち上げるとともに、白山中居神社前で「くくりひめcafé」の営業を開始。

2年後の2012年、事業型小水力発電所の基本設計に取り組みながら、ふるさと食品加工組合を設立。さらに2年後、農業用水農業組合をほとんどの住民が参加して設立。

翌年、1号機：石徹白清流発電所（県営・最大出力63kw、年間約38.6万kw一般家庭約81世帯分）の運用開始。

さらに翌年、2号機：石徹白番場清流発電所（最大出力125kw、年間約61.0万kw一般家庭約130世帯分）の運用開始。

1号機は年間売電収入約1,200万円、県営で利益約400万円を土地改良施設維持管理費・集落排水事業などの電気代に活用。

2号機は石徹白農協営で、売電収入年間約1,800万円、運用経費、返済金などを差し引いた約200万円を活用し、休耕地の活用や新規就農者の技術研修等に取り組むとともに、特産品の販路拡大など地域の活性化事業を行っている。



番場清流発電所の最大125kwの発電機

お見事！ソレイユ（女性消防隊）

全国大会出場へ



11月13日に横浜市で行われる全国女性消防操法大会に群馬県代表で出場する沼田市消防団女性消防隊「ソレイユ」に対する激励会が20日、沼田公園で行われました。写真上は、横山市長、消防関係者などの激励を受けたのち、消防操法を披露する女性消防隊「ソレイユ」。



市長の激励を受けるソレイユ隊員

行政調査報告2

1乗車100円で市民の足を守る

岐阜県高山市公共交通

高山市は日本一大きな面積の市で、沼田市の約5倍、4つのエリアがあり、合併前の旧市町村ごとに実施されていた公共交通（バス路線）の再編・新公共交通体系の構築を行い、実証実験運行の実施を経て本格運行を実施しているところです。

旧市町村をつなぐ幹線バスは、民間の濃飛バスが担っています。中心市街地の循環バス（まちなみバス）とエリアごとの地域バス（のらマイカー）が市営で、乗車運賃1回100円で運行されています。民間バスもエリア内は100円です。

地域バスの一部は、乗車率が低く、現在では、デマンド（予約制）のタクシー車両によって運行されておりますが乗降はバス停です。

2019年10月27日 No.945

いのさんニュース

発行所沼田市下久屋町983 ☎23-1519

井之川博幸議員活動地域版部内資料